

「防災・危機管理」部門幹事会（2 月 25 日） 主要意見要旨

（全体）

- ・ 静岡空港との具体的な連携策（緊急物資輸送体制など）を港サイドから提案すべき。
- ・ 被害想定を前提として、復旧・復興のシナリオの中で、各港の役割・連携のあり方を考えるべき。
- ・ 県全体の早期復旧には、復旧活動の優先順位を示すことが重要。どこから手を付けるべきか、ケーススタディとして考えておくべき。
- ・ 避難民の輸送に船を活用することは効果的と考えるが、心理的な面から水際の活用がうまく進むかは疑問。
- ・ 空港と港湾との分担・連携が重要な課題。空港は医療物資の供給拠点、港は衣食住の物資や避難対策を担う。
- ・ 港内へ流入する漂流物や一時的に港に滞留する災害がれきへの対策（がれき置き場と処分方法）を考えておくべき。
- ・ 「みなと機能継続計画」における港湾区分との整合を図るべき。
- ・ みなと BCP では人命を最優先に考え避難計画を最重要課題とすべき。
- ・ 緊急物資の船舶輸送の重要性をもっとアピールすべき。
- ・ 首都圏の支援を構想に加えていることは良いこと。港の空間は限られているが重要性は高い。陸側との分担をどう考えるかが重要。
- ・ 人命を救うための対策を優先して考えることが必要。復旧には重機の確保が不可欠。

（清水港）

- ・ 津波被害を受けることが前提である埠頭を、防災拠点として位置づけるのは適当か。（興津埠頭基部）

（御前崎港）

- ・ がれき処分のゾーニングを打ち出すことは良いこと。
- ・ 御前崎港の早期復旧には、人的・物的バックアップを相当受ける必要がある。長期の施策としてはこれで良いが、取り組みの順位付けが重要。